

『苗半作、八分作』

農業に昔から伝わる言葉で、「苗の出来によって作柄の半分が決まる」という意味です。それくらい作物栽培にとって苗作りは重要であり、力を入れるべき箇所なのです。

【理想的な苗とは？】

腰が低く、 硬くてガッチリした苗！

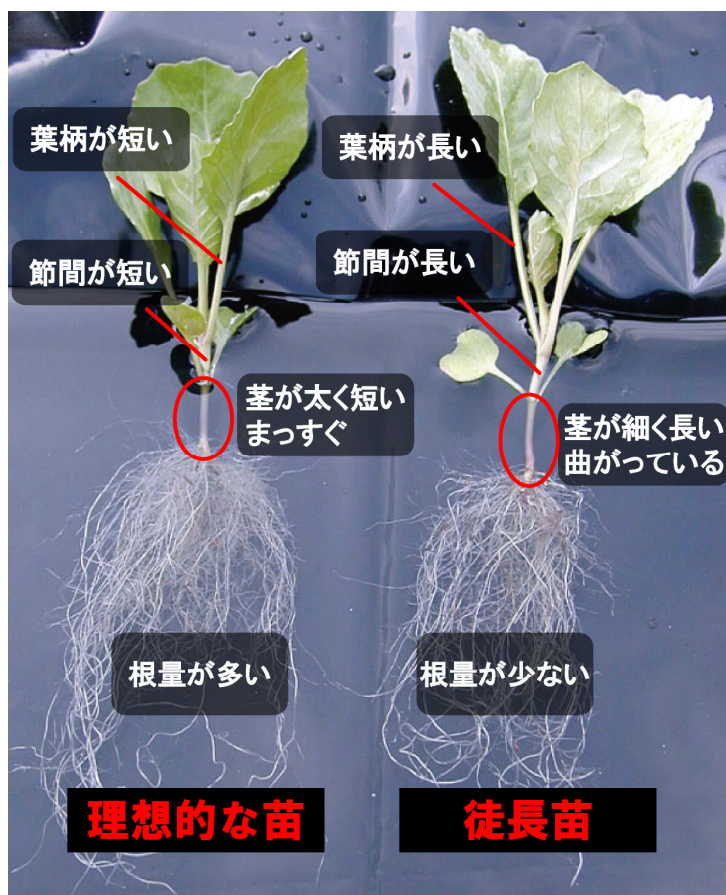
軟弱な苗では、本圃への移植の際、環境変化に対応できません。また、病気や害虫にも侵されやすくなってしまいます。

【判断のポイント】

- ・根量が多い
- ・茎が太く短く、まっすぐ
- ・葉に厚みがあり葉柄も太い

【良質苗のメリット】

育苗期のガッチリとした性質は、本圃での生育でも引き継がれ、環境変化や病気にも強く、生産性のある株に育ちやすくなります。



【苗作りのポイント】

育苗期となる春先は天候や気温が不安定になりやすく、苗作りにとっては難しい環境となります。しかしながら、車でアクセルとブレーキを使って安全な運転をするように、育苗もチッ素とリン酸を上手に使うことで、低温時の生育不良を改善したり、高温時の徒長を防止したりといった生育調整が可能となります。

【良質な苗を作るための施用例】

☆健苗作りと発根促進

MリンPK・・・培土に2～5 g/L 混合

※無肥料培土の場合、

- ・MリンPK：2～5 g/L
 - ・硫安：0.5～1 g/L
- を混合してください。

微生物資材（Mリンカリン）で発酵処理し、「効くリン酸」を実現させた資材。リン酸は光合成を促進し、炭水化物の生成を盛んにします。

炭水化物の生成（＝炭素率の向上）は、発根を促進するホルモンを作るとともに、細胞を密にしてガッチリとした体を作ります。

※苗作りに使用する M リン PK には粉状がお勧めです。



MリンPK (粉状)

☆低温時や生育不良の場合

苗上手アクセルA・・・400倍液を散水

☆高温時や徒長気味の場合

苗上手ブレーキB・・・400倍液を散水

チッ素成分を主体にした**苗上手アクセルA**で生育を促し、リン酸成分を多めに含む**苗上手ブレーキB**で徒長を防止します。

細かな生育調整をすることで、春先の不安定な天候でも丈夫で根張りのよい苗に仕上がります。

※苗上手ブレーキBは、本葉が1枚展開した頃から、3～5日おきに2～3回散水してください。



苗上手アクセルA (左)

苗上手ブレーキB (右)